

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 7 月 6 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3474400409		
法人名	社会福祉法人 安那福祉会		
事業所名	グループホーム サンサンホーム		
所在地	広島県福山市神辺町字東中条610番地16		
	電話番号	084-967-1033	
自己評価作成日	平成28年 5月 6日	評価結果市町村受理日	平成 28 年 7 月 11

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.sunsun.or.jp/
----------	---

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	平成 28 年 6 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの入居者の認知症に合わせた対応を行い、少しでも認知症の進行緩和に努めている。
食事に関しても、味・見栄えも考えながら、一人ひとりに合った食事形態を考えながら、口から食
べることを大切にしている。
職員が少しでも長く働けるよう希望休や希望勤務帯に合わせた勤務を考え、残業をできるだけ行
わない対応をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな小高い場所にあり、四季折々の季節が感じられ穏やかに過ごせる環境である。また、広
大な敷地に複数の指定施設が併設されていて、色々な行事やクラブ活動等でそれぞれの利用者と
交流する仕組みが取られ、人との関わりを日常的に持つことができる。また、1ユニット6名の利用者
となっている為、一人ひとりと会話する時間も多く、気づきや其の人の思いも早く把握する事ができ
個々の状態に合わせた対応で認知度の進行緩和に向けた介護を心掛けている。医療面に関しても
個々のかかりつけ医で全面的に通院支援もされ、緊急時等も併設施設の看護師がいる為安心であ
ると共に協力体制も整っている。地域との関わりも地域行事に積極的に参加する事で馴染みの場所
や人との関係継続に努めている。職員研修も複合施設全体であらゆる分野で定期的の実施し個々
のスキルアップに繋がられ、よりよいケアに取り組まれている。常に環境整備に心掛けられ、職員も長
期勤務の方が多く利用者も安心して生活出来る。事業所内も清潔に保たれ、地域のボランティアの
方の訪問で楽しい時間を持つことができ、日々張りのある暮らしができる様、管理者、職員が想いを
共有し取り組まれている。声かけも優しく、利用者本位の生活を大切にした事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をいつでも見れるよう掲示板や事務所に貼っている。	それぞれのユニットの見え易い場所に独自の理念は掲示されている。運営理念と共に職員研修の中で振り返る機会を持ち全職員が共有しながら、日々のケアに繋げる様周知されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地上の問題から日常的に交流は難しいが、夏祭り等地域の行事への参加や地域のボランティアの受け入れ等を随時行っている。	地域行事を通し交流に努めている。夏祭りや敬老会等には積極的に参加すると共に事業所の夏祭り等には家族をはじめ地域の方の参加も多く顔見知りの関係づくりに繋げている。複合施設なのでそれぞれの利用者と交流は日常的にされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会時、外出、手紙、運営推進会議等を通じて家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催する運営推進会議では、グループでの取り組み、状況報告等を行っている。家族代表、地域包括職員、行政、民生委員など幅広く意見を聴きながらサービス向上に努めている。	定期的に開催し家族、地域代表、民生、行政、地域包括等の参加の下、利用者の日々の生活状況や行事、また、ケアプラン等についての質問などもあり、具体的に説明すると共にヒアリング等詳細に報告され、貴重な多くの意見が得られ有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも行政代表に参加してもらい、グループホームのケアを積極的に伝えている。	毎回運営推進会議への参加が得られている為、取り組みや現状については把握してもらっている。必要時には出向き情報提供を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム入口は施錠していない。また、身体拘束も行っていない。	原則拘束はしない方針であり、全職員が理解し、不穏になる利用者には要因を把握し、職員間で話し合い、協力しながら見守りで対応し拘束はされていない。研修も全職員が参加できる様複数回実施し、しないケアを徹底されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修、ユニット会等を通じて取り組んでいる。虐待防止研修の内容を現場職員に伝え、注意を喚起している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレット等で学ぶ機会があっても取り組みは不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情があった場合等は苦情対応表に記入し、管理者に報告をしている。また、現場職員にも連絡帳に記入し、報告している。運営推進会議でも報告している。	訪問時や電話等で近況報告される際やケアプラン作成時にも意見、要望を把握する様務めている。それぞれの場面で把握したことは個々に対応すると共に職員にも連絡帳で周知し統一したケアを心がけ運営にも反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チーフ会、ユニット会、個別面談などで機会を設けている。	ユニット会議や日々のケアの中で提案や意見等は聞き取る様務めている。また、年1回事務長面談もある。何でも言える環境であり、あらゆる場面での意見や提案は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を行うなど、働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた研修や外部研修への参加機会を設けている。また、月に1回、施設内研修を開催し、知識と技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等での情報交換の機会を設けている。また、地域包括支援センター主催の地域密着型介護事業所交流会に参加の機会を設け、情報交換をしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込時や入居前面接等、入居前に本人に話を聞く機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時や入居前面接等、入居前に家族に話を聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込時や入居前面接等、入居前に本人と家族に話を聞く機会を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に一緒に家事を手伝ってもらうなど生活の主体者として捉えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけで対応できない時などは、家族が対応してくださる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ外出をし、今までの馴染みのある人と接する機会を設けている。	地域行事(敬老会、夏祭り)で出会いがあり、友人等の訪問もある。また、自宅近くまでドライブしたり、馴染の医院への受診する事で知人に出会う機会もあり、人や場所との関係が長く続けられる支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士での助け合いの言葉のやり取りを見守り、入居者間の関係が円滑に進むよう職員が間に入り、会話や作業のサポートを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を断ち切らないよう考えているが、現実として関わる機会が減っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、ご家族の意向など踏まえている。	個々に寄り添い、会話の中で汲み取るよう努めている。口頭で言われる方も多く、運動や外出、食事等の希望が出る。思い等は個別の記録で全職員が把握され、可能な限り想いに沿うようにしている。困難な方には行動や表情から汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会時に、ご家族にこれまでの生活歴について聞くなど、少しでも馴染みの暮らし方、生活環境の把握に努めている。また、本人との会話の中からもしっかりと読み取る努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録などを使い、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状況等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には面会時、職員にはユニット会などで意見を聞き、計画作成をしている。	日々の記録や家族からの要望、職員の意見、医師の意見等を総合して、本人本位の計画を作成し、家族に説明し承諾を得ると共に職員にも周知している。見直しやモニタリングも定期的にされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子をケース記録に記入し、見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスへ参加したり、ケアハウスと交流する等実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	充分ではないが、本人にあった地域の行事など活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ病院との連携を密にし、いつでも対応できるよう関係作りを行っている。	各自のかかりつけ医で対応され、通院受診も事業所でされている。受診の詳細についても記録され、全職員が把握し安全確保に努めている。他科についても対応している。訪問歯科支援もある。結果等は定期的に報告している。急を様する場合は即伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常駐はしていないが、併設施設の看護師、かかりつけ病院の看護師と連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したときには、状況を面会時や病院関係者に聞く等して確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や医師と早い段階から相談し、事業所のできる範囲を伝えている。対応が難しい場合は、受け入れ可能な他施設を探している。	利用開始時、方針については説明されている。状況変化が起きた場合は家族や関係者と話し合い、主治医の所見に従い、その時のケースにより、体制が整えば家族の要望を重視した対応で方針を共有し支援に取り組む体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行うとともに、個別の留意事項の確認を行っている。緊急時のマニュアルに添って、いざというときに動けるよう周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体の防災訓練に参加し、防災意識の高揚を図ってる。地理的に地域の人々の協力は即座には望めないが、地区消防署や地域ボランティアへの協力要請に心がけている。	年2回、夜間、日中を想定し、各併設施設と合同で実施し、避難、消火、通報等の訓練を行い、全職員が慌てず、速やかに対応出来る様取り組まれている。定期的に点検整備も行うと共に家族や運営推進会議でも報告し、協力をお願いもされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけ一人ひとりにあった言葉かけ、対応を行っている。	ケアマニュアルに沿ったケアの周知をし、馴れ合いになっても節度ある対応に心掛ける様務められている。職員研修も実施されると共に日々気づいた時は注意し合い尊厳を大切にしたい支援をするよう取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自己決定できるよう本人が解る声かけの工夫等、自己決定がしやすい環境づくりをサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の選択等はできるだけ本人にお願いするようにしている。理美容は施設内の美容院を利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ一人で思うように食べられるように食形態を工夫したり、好みについてもできる限り希望に添うよう提供している。食材を入居者と一緒に切ったり、職員・入居者と協力をして片付け等をしている。	その人に合わせた形態や量の配慮がされている。メニューを選べる日を設け、希望の食事ができる事で食べる事の楽しみとなる取り組みをされている。力量により台拭きや茶碗洗い等、率先してされている。ねぎらいの言葉も掛けられ、張りのある生活に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できるだけ一人ひとりの状態に合わせた食事形態を提供している。また、食事や水分量が少ない時は、記録に残して情報を共有したり、毎月、体重測定を行い、増減をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりにあった口腔ケアをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄できるよう一人ひとりの排泄リズムの把握に努めている。	日中はトイレ誘導を行い、立位や座位をしてもらう事で機能維持に繋げる支援に努めている。排便チェックも行い便秘の方には食事、運動、水分等の工夫を行うと共に医師の指示を得ながら、不穏にならない支援に心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に運動や水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調や希望に合わせて入浴支援している。	週3回、午後と決められているが希望や職員体制等により時間帯はその日の状況により柔軟に対応している。湯温の希望などもあり、思いを大切に楽しみとなる支援に努めている。状態が悪い場合は足浴で対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズムを尊重しながら、必要な場合には職員より昼寝の声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容をケース記録にファイルして、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた形で、役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望にできるだけ添えるよう支援している。また、随時、外出する機会を設けている。	地域行事に参加したり、四季折々のお花見、外食等に出かけたり、少し遠出で笠岡の道の駅に行かれる事もある。お誕生日には希望のおやつを食べに行かれる等楽しみごとと気晴らし、五感刺激となる支援に取り組まれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理しているお金については、自由に使ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時には、電話をかけていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者本人の所有物、入居者や職員が作った物などを飾ったりして、生活感、季節感を出した共有空間づくりを行っている。	季節を感じる装飾品や利用者が作成されたぬり絵が飾られ、畳スペースやソファも置かれ思い思いの場所で過ごす事ができる。2ユニット自由に行く事ができ開放的である。清掃も行き届き、水回りにも危険な薬剤もなく、不快な匂いもなく室温にも配慮され安心して過ごせる共有の場である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の相性などを考慮しながら、一人ひとりに過ごしやすい場所の提供を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に今まで使っていた家具などを入れて、個々の居室づくりを行うよう努めている。	家具や寝具などが持ち込まれ、装飾品や家族との思い出の写真などもあり、その人らしさが感じられると共に自宅との違和感のない配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに張り紙を貼ったり、よく見える場所に洗濯物を干すなどして分かりやすい居住空間の提供を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼすべての家族と
		○	②利用者の2／3くらいの			○	②家族の2／3くらいと
			③利用者の1／3くらいの				③家族の1／3くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある			○	③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②利用者の2／3くらいが			○	②少しずつ増えている
			③利用者の1／3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		、○	②利用者の2／3くらいが			○	②職員の2／3くらいが
			③利用者の1／3くらいが				③職員の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2／3くらいが				②利用者の2／3くらいが
		○	③利用者の1／3くらいが			○	③利用者の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている		①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②利用者の2／3くらいが			○	②家族等の2／3くらいが
			③利用者の1／3くらいが				③家族等の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		①ほぼすべての利用者が				
		○	②利用者の2／3くらいが				
			③利用者の1／3くらいが				
			④ほとんどない				

(別紙4(2))

事業所名:グループホームサンサンホーム

目標達成計画

作成日: 平成 28 年 7 月 11 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	27	介護方法や対応を個別記録に残し、情報共有をしているが、介護方法の統一が難しい。	入居者に対してある程度の統一した介護が行なえる。	・自分以外の職員が行なう介護に目を向け、入居者にとって良い方法を見つける。 ・ユニット会で個々の入居者の対応や、介護方法について細かく話し合う。	1年
2	36	職員の声かけ技術に差が出ている。	一人ひとりに合った適切な声かけや、コミュニケーションをとることで、入居者が安心して生活できる。	・不適切なコミュニケーションの取り方になっている場合は、現場で修正したり、ユニット会で話し合う。	1年
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。